

# 兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会 [第2回総会] 議 事 要 旨

I 日 時：平成28年3月7日（月）14：30～16：00

II 場 所：神戸市教育会館 404号室

III 出席者

別紙1のとおり

IV 議 事

- 1 兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約の改定について
- 2 平成27年度 プロジェクト事業実施状況について
- 3 平成28年度 プロジェクト事業実施スケジュール
- 4 プロジェクトメンバーへの登録状況等について

V 主な内容

- 1 開会
- 2 兵庫県産業労働部長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 事務局資料説明  
事務局から議事1、2、3、4について資料をもとに説明
  - (2) 意見交換  
別紙2のとおり
- 4 閉会

## 出席者 31 名（構成員 22 名、オブザーバー、県・推進協議会事務局 9 名）

構成員（22名）

代理	城内 喜博	兵庫県経営者協会特別参与
	宮本 要	公益社団法人兵庫工業会専務理事
	足立 誠	兵庫県商工会連合会専務理事
	深田 修司	兵庫県中小企業団体中央会専務理事
	橋本 芳純	公益財団法人新産業創造研究機構専務理事
	足達 和則	兵庫県立工業技術センター次長（総括担当）
	三重野 雅文	公益財団法人先端医療振興財団経営企画部長
	山田 猛	一般財団法人近畿高エネルギー加工技術研究所専務理事
代理	櫻内 亮久	公益財団法人計算科学振興財団業務運用グループ長
	角 正憲	公益財団法人ひょうご産業活性化センター常務理事兼企画経営室長
	廣瀬 勝久	一般社団法人神戸市機械金属工業会事務局長
	後藤 章暢	公益財団法人神戸国際医療交流財団代表理事
	小林 滋	特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構理事
	窪田 雅夫	一般財団法人兵庫県雇用開発協会専務理事兼事務局長
	太田 勲	兵庫県立大学理事兼副学長兼産学連携・研究推進機構長
代理	小高 裕之	神戸大学連携創造本部副本部長
	小川 賢一	株式会社三井住友銀行公共・金融法人部（神戸）部長
代理	猪瀬 啓介	株式会社三菱東京UFJ銀行コーポレート情報営業部調査役
	宮野 修	兵庫労働局職業安定部長
	今西 正男	神戸市理事（医療産業都市・企業誘致推進担当）
	石井 孝一	兵庫県産業労働部長
	村上 元伸	兵庫県産業労働部政策労働局長

県・推進協議会事務局（9名）

	境 照司	産業労働部政策労働局産業政策課長
	今井 良広	〃 産業政策課企画調整参事
	山下 裕司	〃 産業政策課政策班長
	大谷 俊洋	〃 しごと支援課長
	安部 則行	〃 産業振興局工業振興課長
	三浦 佳子	〃 新産業課情報・産学連携振興班長
	竹村 公秀	〃 産業立地室長
	大北 次郎	企画県民部科学情報局科学振興課科学班主幹
	安達 正志	推進協議会事務局主任プロジェクト推進員

## 議事要旨（意見交換）

## ○事務局

ただいまから次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会第2回総会を開催します。この会議については、第1回と同様、本県の取り扱いに準じ、公開とします。それでは、開会にあたりまして、推進協議会の会長である兵庫県産業労働部長から、ご挨拶を申し上げます。

産業労働部長あいさつ

新規・交代の構成員の紹介

## ○事務局

それでは、議事に入りたいと思います。議事の1つ目は、兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約の改定についてです。資料1に基づき、産業政策課長から説明します。

産業政策課長の説明

## ○事務局

ただいまの説明について、ご質問・ご意見等はございませんでしょうか。ご質問等がなければ、協議会規約の改定について、ご承認をいただいたこととさせていただきます。

続きまして、議事2の平成27年度プロジェクト事業実施状況及び議事3の平成28年度プロジェクト事業実施スケジュールをまとめて説明します。資料2、資料3に基づき、各事業所管課室から説明しますが、事業実施主体の皆様から補足等ございましたら、全事業説明後に時間を設けておりますので、その際にいただきたいと思います。また、事業取組に対するご意見等につきましても、全事業説明後に、意見交換をお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。それでは、まず新産業課班長から説明します。

新産業課班長の説明

## ○事務局

続きまして、工業振興課長から説明します。

工業振興課長の説明

## ○事務局

続きまして、産業立地室長から説明します。

産業立地室長の説明

## ○事務局

続きまして、科学振興課主幹から説明します。

科学振興課主幹の説明

## ○事務局

続きまして、しごと支援課長から説明します。

しごと支援課長の説明

## ○事務局

続きまして、産業政策課長から説明します。

産業政策課長の説明

## ○事務局

以上で全事業について、資料2の実施状況を中心に説明したところですが、事業実施主体の皆様からの補足説明、意見交換に入る前に議事4のプロジェクトメンバーへの登録状況等について説明します。資料4に基づき産業政策課企画調整参事から説明します。

産業政策課企画調整参事の説明

## ○事務局

それでは、残りの時間で各事業実施主体の皆様からの補足説明ですとか、事業構想の推進、各事業の取組に対するご意見等をお願いします。

## ○A委員

このプロジェクト、先ほどご説明がありましたが、雇用創出も当初考えていたより進んでいるようですし、きっちり結果を出していくのかなと考えております。ただ、私どもでは、補助金を出すのが初めての経験ということもあり、規程の整備等に担当者が追われている状況で、なかなか大変な事業だと感じております。

私どもでも、いろんなプロジェクトを担当していますが、一つのきっかけを与えることで、中堅・中小企業のみなさんが次世代産業に進出する、非常に大きなチャンスになっていると思います。ただその時に、これで一度、人材育成や資格取得などができた後、どういう形で事業を組んでいくのか。

例えば、航空機であれば、機械金属工業会や私どもの方で、プロジェクトと言いますか、航空機ビジネスのクラスターを形成しておりますので、それに入らせていただくことによって、川下企業さんとの関係もできますし、ある程度資格を取って、ビジネスにつなげていくという道筋が見えやすいのですが、それ以外の分野でも同じような形で、やはり次世代産業となると、大企業さんを見無視してはビジネスとして成り立たないと思うので、今後、進出しようとしている中堅・中小企業さんの受け皿をどう作っていくかということが、一つの課題ではないかと最近感じております。

## ○会長

おそらく今の課題が、共通の一番大きな課題だと思います。現在は、ソフト事業に対する補助制度としてできていますので、セミナーや資格取得に向

けた支援などを同時並行的に進めていますが、やはり最後は川下企業のビジネスにどのように参画していくかがゴールになっていくと思います。

今回の航空機セミナーも、川下企業さんが今どのように考えておられるかを、みなさんに知っていただきたいということで開催したものです。やはり航空機産業においても、ハードルが高いということをよく理解いただけたと思いますし、MR Jの増産等を見込んで、ビジネスとして広がっていくということも理解いただけたと思います。航空機に関しては、なかなかすぐに採算を取れる事業ではないけれど、一旦そこに参画すると、かなり固定的に長く参画し続ける可能性があるビジネスだということも、みんなが感じたところではないかと思います。

このようなセミナーをいろいろなテーマごとに開催し、今それぞれがどの段階までビジネスとして成熟しているのかをみんなで共通理解できるような機会を今後もどんどん作っていきたいと思います。

また、今回、ハード整備に関して補助制度を新たに設けました。神戸市さんや国でも設けていますので、そういったハード整備についても、補助制度を活用して、きちんとしたサプライチェーンを作りながら、産業全体の底上げを図っていきたいと思います。まさに一番大きな課題だと思います。

また、せっきくの機会ですので、参考資料1の次世代産業創出に向けた主な県関連施策について、簡単に説明させていただきます。

まず、兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクトは、3か年の事業となっています。28年度で3億5800万円、3か年で総額約12億円の事業総額です。そこまでは補助金、補助制度として担保されているのですが、そこから先はどうするのかという問題が、我々行政の側に突きつけられています。

現在、多くの企業に次世代産業分野の状況を知ってもらい、またその意識の中で新たなものに挑戦する時に、こういうハードルがあるので、みんなが越えて行きましょうという形で、ソフト事業を中心に進んでいます。

しかし、次に、現実に事業に参画するということには、さらに1ステップも2ステップもあるだろうと思っています。おそらく、この3か年の中で全てが事業化につながるということは、なかなか難しいと思います。この補助事業の後には、次のステップをよく睨みながら、別途、行政として何らかの支援制度により、事業が進むような仕掛けを作ることが必要だと思います。

設備投資等への支援については、当プロジェクトの初年度が終わった段階で、次を睨んだハード整備を平行して進めておくことが必要と考え、県の制度として1億の予算措置をしました。

産業立地促進補助の実施については、来年度17億ほどの予算を積んでいます。この中で、次世代産業の立地を呼び込みたいと思います。そのほか、雇用補助、設備投資補助など、様々な補助制度を設けています。

また、特に今年度は、東京一極集中の是正に向け、本社機能を兵庫県に引っ張ってくるため、本社機能の立地に対する補助制度や税の軽減等をより強固なものとして作っています。

それから、中小企業向け融資制度も、融資枠を今年度3000億のところ

を3500億に引き上げたということと、新分野進出資金、設備投資資金、観光商業など、こういった前向きに進めようとする事業に対して利率を大きく下げています。また、保証料については、信用保証協会との連携のもと、保証料の補助を実施し、トータルとして前年度より軽減する措置を講じており、中小企業が前向きに取り組みやすい環境を作りました。

COEプログラムの推進では、産学官の連携により、成長産業分野の事業拡大の補助を進めていくための研究を支援することで、色々な新しい産業の芽を広げていこうというものです。今現在は、先ほど説明したような分類で次世代産業を整理していますが、今後、新たに次世代産業と呼ばれるものが増えることはあり得ますので、弾力的な対応で支援対象としていくことになるのだらうと思います。

工技センターは、中小企業の駆け込み寺として認知されていますので、建物自体のリニューアルや設備投資により、様々な支援体制の整備を行っています。産学官連携コーディネーター活動の促進では、様々な産学官のネットワークを形成しています。その中で、色々なつながりができてきているという状況です。また、スーパーコンピュータ京の産業利用など、県が有する世界に誇れる科学技術基盤等がありますので、これらを活用することで、次世代産業の育成につなげていきたいという思いです。

それから、これは必ずしも次世代産業に関係するものだけではありませんが、本県でオンリーワンの技術を持っている企業について、一定の検証をして、TPP等の動きの中で、海外展開を積極的にできるようなオンリーワン企業を創出していく、また、ネクスト・オンリーワンと呼ばれる層への支援により、競争力の高いオンリーワン企業にしていくような仕組みもあります。

これらの施策を通じて、総合的に次世代産業を成長させようというのが本県の産業施策の全体像です。こういった中で、ご質問・ご意見を聞かせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

## OB委員

たくさんプロジェクトが走っていて、それぞれに成果を出されているということで、全部の内容を熟知しておりませんが、いくらかはオーバーラップしているような項目があると思います。セミナー的なものを開催する場合など、似たような取組やプロジェクトがありますので、その辺りで無駄を省くため、多くのプロジェクトに共通するところは、共通して何かできるような、効果的な運営の仕方ができないでしょうか。

## 事務局

ご意見ありがとうございます。確かに、29事業の中には重なっているところがあります。平たく言いますと、製品実用化、販路開拓、人材育成・確保を目指しておりますので、分野ごとに事業を切っていた時に横を見ますと、少し分野は違いますが、似たような事業をいっているところもあります。

無駄をはぶくということでは、事務局で全体をコントロールして、適材適

所でこういう方が人材リソースとしていますということを事務局から発信することも、ご要望に応じてしていきたいと思えます。

一方で、色々なところで色々な動きがあって、それらを結びつけていって、結果的に無駄ではないという、このいわゆるリダンダンシーみたいなものが有効に働くというような、事業展開を模索したいと思っています。

効率的に事業を運営するということは、当然、限られた予算の中でやっていく一つの考え方ですが、もう一つ、事業を上手くつないでいって、相乗効果をどうやって高めていくかということもあり、事務局としては両方やっていく必要があると思えます。

具体的な話で申し上げますと、AMP I で水素セミナーを開催していただいております、第2回セミナーで川崎重工の方にご講演いただきました。同じ方に、今回マッチング事業のイベントでもご講演いただきます。非常に重要な水素分野のキーマンなので、いろんなところでご講演いただいた方が良く考えていますが、他方で、多様な意見を聞きたいという考え方もあると思えます。そのあたりを事務局でどのように差配していくのか。要は、関係者間のコミュニケーションを密にして、分野毎にどう展開していくのか。医療なら医療、ロボットならロボット、その中で、一人の有効な人材を十分活用していくのか、あるいは、多様性を事業の中で持たせていくのか。そのあたりの共通認識を実際の事業を回している担当者の中で持てるよう、コミュニケーションを高めていきたいと思っています。事務局の認識としては、両方の側面を考えたいところですので、ご理解いただければと思えます。

## ○会長

プロジェクトの事業実施主体が多彩であり、その事業実施主体にある程度お任せして、それぞれが中心となって動かれていますので、横を眺めた時に、ここをこうした方が良いという部分も出てきます。それを調整するのが、この推進協議会ですので、今のようなご意見を言っていただいて、これとこれをくっつけようとか、あるいは、これは面白そうだからこっちでもできないかというような関係をつくり出せたら良いと考えております。我々としても、手探りでやっている事業であり、他のグループから知恵を借りたり、一緒に研究成果を発表したりするなど、横断的な取組がこれから出てくると思えますが、そういうことをこの会議で議論できたらと思えます。プロジェクト間で有機的なつながりが行われるというのが理想かと思っていますので、いろんなご意見をいただければ、我々も参考にしたいと思えます。

## ○C委員

中小企業の支援ということで、私もいろんな事業をしており、できる限りの支援をしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

## ○D委員

質問があります。プロジェクトメンバー登録状況が、193社ということ

でしたが、どのような形で登録されているのか。航空機産業セミナーのアンケートでは、プロジェクトを知らないとの回答が半数以上ありますが、どういふことでしょうか。

また、中小企業にとって、次世代産業に関しては取引拡大ということが関心事ですから、実際のところどのように取引拡大を進めていくかがなかなか見えない。どのように、点と点を結んでいくのか。

## ○事務局

プロジェクトメンバー登録は、登録の申請書を出す時に、それぞれ分野ごとの関心事項を書いていただくということで、登録段階で、こういう記載をしていただいているということです。セミナーに関しては、登録企業以外の一般の方も受け付けましたので、全く知らないという方もかなりおられたというのが事実です。

今後どうやって事業化につなげていくかということですが、共通支援メニューの中で、活性化センターやN I R Oでマッチング事業に取り組んでいただいています。当協議会の構成機関の方は、産業支援機関の方が多くおられて、当然、それぞれのマッチング業務をお持ちですので、このプロジェクト内外のマッチング事業に、いかに上手くつないでいくかということが今後の展開において重要です。それから、水素のように、市場が見えて参入するのが5年、10年先だという分野については、いきなり川下企業につなぐというよりも、その前の段階の市場形成という部分で、取組を先に進めていくべきではないかと思います。

## ○E委員

このプロジェクトを活用して、最終的な雇用につないだところが、優良で成果を出した企業ということになるのかと思います。初年度で164人の雇用創出につないでおり、企業数で見るともっと少ないと思いますが、プロジェクトを活用して成果を出した企業を公表し、表彰して、アピールしてはどうか。2年目や3年目の途中からでもいいので、こんな元気な企業が、次世代産業の創造に向けた取組をしているということをアピールする成果事例集みたいなものがあれば、これから先どうしたら良いか模索している企業さんも、こんな取組をしている企業があるということや、自社もその企業と取引ができるようなものを持っているのではないかということを知って、具体的な取引につながるきっかけにできるのではないかと思います。

## ○A委員

一点、プロジェクトの広報について。今年度は、初年度ということもあり、募集が終わってから問い合わせを受けることもありました。まずは、プロジェクトを知ってもらわないと意味がありません。当方のホームページに載せていても、見る方は限られているのが現状ですので、広報について、特に兵庫県下のいろんな地域に広がるようなアイデアを考えていただきたいと思



ます。

### ○F 委員

私どもでは、直接的に次世代産業分野を専攻している研究員や機器というのはあまりないのですが、活用していただける部分は、活用していただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

### ○G 委員

この事業自体が手探りだと伺いましたが、私どももインシリコ創薬ということで、本当に手探りの状態でして、なんとかアプリケーションができましたが、さて、どうやって売っていかうかというところで躓いているような状況です。そういった体制も踏まえると、3年以内に花開くというのはなかなか難しいかもしれませんが、5年、10年かければ、また次世代のスーパーコンピュータがあれば、もうちょっと花が開くと思います。そうなれば、雇用の創出も大きくなりますので、頑張っていきたいと思います。

### ○H 委員

さきほど、事業がオーバーラップしているという指摘がありました。我々の水素関連でもそうですが、やはり企業さんが新しい業界に参入する場合には、いろんなチャンネルが必要ですので、そういう連携をたくさん求めることができるということが、ひとつの大きな効用だと思います。その意味では、多少オーバーラップしても、どんどん進めていただいたら良いと思います。企業さんも、あちこちのセミナーに出ることによって、連携が深まったり、新しいチャンネルが繋がったりというメリットがありますので、全体として取り組んでいくという姿勢があれば良いと思います。

もう一つ、このプロジェクトは3年間ですが、新事業を興したり、新しいところに参入したりということは、なかなか3年間では難しいところもありまして、3年間のプロジェクトの終了後も、雇用を創造するため、色々な形で面倒を見ていただいて、それらの事業がきちんと地に着くまで支援していただければ大変良いと希望しております。

### ○I 委員

私どもの方では、スーパーコンピュータの活用を通じて、雇用を創出していくというような事業になっていますが、そもそもスパコンを使っている企業は圧倒的に大企業が多いです。ところが、このプロジェクト事業の性格からすると、大企業よりは中堅・中小企業を対象としていると思います。事業の狙いとするところと、一方でスパコンの活用の実態というところに焦点を当てると、大企業をターゲットにして雇用創出数を上げていった方が良いでしょうが、そのところの戦略について、どのようにバランスを取っていくかということが、来年度以降の課題だと思います。

## ○J 委員

我々のところでは、オンリーワン企業の創出支援事業を実施しており、次世代産業関連企業の方に神戸に来ていただいて、商談会の実施をしています。資料にあるように、商談会を4回、個別マッチングを5回開催し、実際に大企業である川下企業の参加が9社ということで、なかなか神戸まで来ていただけるような企業が発掘できていないというのが実態です。

また、神戸に来ていただき、川上企業とのマッチングを行うわけですが、マッチングの成果は、なかなかすぐには雇用結びつかないこともあり、この事業は雇用ということで評価されるわけですが、我々としては、商談会でのマッチング成果を本来なら評価すべきではないかという、ジレンマを感じているところです。

## ○K 委員

私どもは、販路拡大事業ということで機械金属加工技術の高度化に取り組んでいますが、位置付けとしては航空機産業への参入を担っています。この1年間、県の補助事業を活用して、私どもに何ができるのかと、あるいは何ができないのかというようなことを考えてきました。また、川下企業とのマッチング、これが雇用に次ぐ大きな狙いですので、川下企業がどういったことを期待しているのかといったニーズを探りながら、28年度に向けての作業を進めて参りたいと考えております。

## ○L 委員

人口減少ものづくり技術イノベーション創造事業ということで、私どもは極限作業ロボット等が本来のものですが、今回は、より人々の市民生活に役立つ、子育て支援、家事支援、農業支援というロボット分野で参画させていただきました。こういう、本当に人に役立つロボットの分野で、今回手を挙げていただいた神戸市内や兵庫県下の企業と一緒にやっていきたいと思えます。

事業期間の3年目以降のお話がありましたが、実は私、神戸高専の教師もしております、ここには載っておりませんが、ロボット関連の人材育成にも力を入れています。神戸市と一緒に、ゆくゆくは雇用が創出できるよう、長い目で取り組んでいきたいと思えますので、県の方々には、そういう点でもご支援をお願いします。

## ○M 委員

私どもの会員企業の多くから、中堅技術者になるような若い人材をなんとか雇用したいという声がありますが、なかなか中小企業にそういう若い人材が就職するのは難しいという状況です。しごと支援課さんと一緒になって、東京でそういう優秀な学生さんに兵庫県に帰ってきて欲しいというような働きかけをしていますが、そういう技術系の学生に対して、中小企業と兵庫県から、こういう政策を展開していて、こういう企業さんがあなた方を待って

いますよ、というような働きかけが必要ではないかと思えます。

私どもも、そういう大学に企業さんと一緒に行って、会社説明会等をしていいますが、やはり企業さん自体の説明・プレゼンテーション力のこともあり、それらをまとめて、兵庫県がこんなプロジェクトを持っていて、こんなことで皆さん方を待っていますよ、ということに合わせてやるのが大事だと思います。雇用を生み出すことも非常に大切だと思いますが、本当に今、中小企業が人材を欲していることに対する働きかけが必要ではないかと考えています。

## ○N委員

私どもの事業では、コーディネーター、技術スタッフを配置できたということもあり、かなり積極的に動いておりまして、例えば、地元企業に大学の先端研究施設を積極的に使っていただくというような制度も作りまし、放射光の1日講習会のような利用支援事業も行っています。

また、放射光とスパコンの相互利用というのは、これは非常に重要なので、創薬もそうですが、新材料の開発も放射光で実験して、そのデータをスパコンに入れて、それを基にシミュレーションしていきます。また、ものを作って放射光で測定し、それを繰り返すことで新しいものができるということがあります。そのような視点から、県有ビームラインを利用している企業に対しては、FOCUSさんのご支援を得て、それらを実地で勉強してもらうということをしています。

また、事業がオーバーラップしているという指摘がありましたが、H委員も言われましたように、多少オーバーラップしていても、例えば、私どもでも水素研究をかなりやっていますが、AMP Iさんが開催する水素関連事業のセミナーに積極的に出ていくように勧めています。その場での意見交換や交流会等もあって、パイプ・人脈ができ、企業と大学とのつながりができるということで意味がありますので、そういうところに出ていくことが重要であると勧めています。

あと一点、先端医療分野で、このたび、文科省の研究コンプレックスに採択されたということと、題目だけ見るとオーバーラップしていても中身は違いますが、研究コンプレックスは理研もやるということですので、どういうふうに連携を取ってやっていくのかということを考えています。

それに加えて、4月からは理工学研究センターを立ち上げて、医療機器の分野で産・医・工で連携を強めていこうという取組を始めます。NIROさんのお世話になって、そこに相談行けば何かあるということで考えていますので、よろしくお願いします。

## ○○委員

日頃、産学フォーラムなど色々なイベントを開催していきまして、地元の企業、中小企業とのイベントを担当しています。すでに何人かの委員の方からありましたが、この事業の継続性という面で、若い人たちにどうアピールす

るかというあたりが、一つポイントではないかと思えます。

実は、私も高大連携事業をやっています、高校生に色々なことを教えていく中で、関西の企業とか、次の関西というような話題の授業があり、地元の高中生も、今、関西がどうなっているのか非常に興味を持っています。こういった若い世代の人たちに、3年後にそのまますぐに結びつくということは無いかもかもしれませんが、何かしらアピールができれば良いと思えます。その面で、さきほどA委員からもありましたように、いかにアピールするか、ジャストアイデアですが、例えば今度国際フロンティメッセがありますが、そういうところにも高校生も来ていますよね。専門学生も含めて、そういうところでやっぱり兵庫県がこういう取組をしているんだというようなアピールをしていくことが必要ではないかと思えます。

### ○P委員

私どもは、資金調達にかかる利子補給制度を担当していますが、この利子補給制度の広報をもう少しやらないといけないと思っています。

あと資料4の方を見ますと、ビジネス・マッチング、人材確保支援、合同研修支援といったようなニーズが非常に高いということがよく分かりました。私どもとしましても、このあたりでお手伝いできることをやっていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

### ○Q委員

私どもが民間の事業者さんのお話を伺う中で、兵庫県は研究開発型の技術を持った事業者さんが非常に多く、また、次世代産業創出を目指している方々が多くいらっしゃいますので、我々はそういったニーズを共有しながら、このプロジェクトを盛り上げていけたらと思えます。

### ○R委員

さきほどの資料2の説明の中に、6月末までの見込みも含めた雇用創出の人員として、164人という人数が出ていました。冒頭にお話がありましたように、このプロジェクト自体が、国の戦略産業雇用創造プロジェクトというものを活用しているということもありまして、当方としましても、雇用創出の部分に重大な関心を持っています。さきほどの説明では、予定も含めて164人の雇用創出ということで、順調な滑り出しだと思っています。最終的には3年間で614名の雇用創出を目指すプロジェクトと認識をしています。ぜひ県の方でも頑張ってくださいたいと思えますし、当方としましても、ご協力できる部分についてしっかり協力しながらこのプロジェクトを進めて参りたいと思えます。

### ○S委員

医療産業都市は構想から17年経ちまして、316社、大体今の推計では1600億円ほどの経済効果だという状況になっていますが、このプロジェ

クトにありますように、17年前は、まさに次世代の産業を興すということで始めました。17年経って、1600億円ということの評価が正直分かれるところで、市内総生産が6兆円ですから、1600億円というのは2%台の経済効果であるということです。雇用を7000人というのは、それなりの効果だと思いますが、地元根付いた基幹産業としての産業化は、まだできていないと認識しています。今回のプロジェクトも雇用は一定確保できる状況だと思しますので、効果はあると思えますし、県として非常に良いプロジェクトだと思えますが、地元根付くような大きな産業に育てていくには、県や私どもも含めた、粘り強く、事業を見極めながらの支援が必要だろうと感じています。

ただ、今まで取り組めなかったような事業について、インシリコの話が少し出ましたが、やっと製薬企業でも使えるようなソフトができたということは、今後の日本の創薬の大きな力になると思えます。それが兵庫県、神戸から発信ができますので、大変大きなことだと思います。医療の関係で私どもがやらせていただいている事業、特にNIROさんと一緒にやらせていただければ、もっと雇用や事業効果を高めることができるようなものがあると思えますので、ポートアイランドの一期と二期に別れてしまいましたが、また一緒に力を合わせて、もっと相乗効果を上げられるように取り組みたいと考えています。

## ○事務局

貴重なご意見等いただきまして、ありがとうございます。本日のご意見を踏まえまして、みなさまと連携を密にして、プロジェクトの推進に取り組んでまいります。

平成28年度については、本日皆様にご説明させていただいた事業実施スケジュールについてご了解いただいたこととし、進めさせていただきたいと思えます。

これで、本日の議事は全て終了いたしました。それでは、これをもちまして、第2回総会を終了させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。